

夏休み事業「こどものくに」について

A Report of the Summer vacation business for the "kodomo no kuni"

伊丸岡政彦¹⁾

MASAHIKO IMARUOKA

(キーワード:) 「こどものくに」 青森県立郷土館 夏休み

はじめに

青森県立郷土館では2000年(平成12年)から、毎年おもに県内の小中学生を対象に「こどものくに」を開催している。当館の「こどものくに」は、物作りや体験活動を通して子供の学習を支援すると同時に博物館に興味を抱いてもらうことを目指して行っている教育普及活動である。今年度で13年目を迎えるこの活動の今後のあり方を考察する。

1 「こどものくに」についての概況

平成12年から平成25年度まで「こどものくに」を利用した活動内容及び参加者数等は表1のとおりである。

表1 (平成12年度～25年度実施の「こどものくに」の内容と参加人員について)

平成	内容	定員	参加者数	計	参加率(%)	実施日
12	・ネブタの話 ・プラスチック標本1・2		173	173		8月5日 8月12日・8月19日
13	・ネブタの話・プラスチック標本1・2		107	107		8月4日 8月11日・8月18日
14	・ネブタの話・プラスチック標本1・2		89	89		8月4日 8月11日・8月18日
15	・縄文生活を体験しよう	50	25	67	50	8月3日
	・蝶と花でしおりを作ろう	50	28		56	8月10日
	・竹とんぼを作ってみよう	50	14		28	8月17日
16	・蝶と花でしおりを作ろう	50	14	60	28	8月1日
	・プロペラ飛行機を飛ばそう ①	40	31		77.5	8月8日
	・プロペラ飛行機を飛ばそう ②	40	15		37.5	8月15日
17	・縄文デザインのペンダントを作ろう	40	40	50	100	8月14日
	・花や昆虫のしおりを作ろう	50	10		20	8月21日
18	・インテリアにもなるよ! すてきな花炭を作ろう	30	21	54	70	7月23日
	・君も化石博士! カッコいい化石レプリカをつくろう!!	30	33		110	8月6日
19	・今日だけ火遊びOK! 火打ち石で火をおこそう!	30	26	68	86.7	7月29日
	・君も化石博士! カッコいい化石レプリカをつくろう!!	30	42		140	8月5日
20	・ねぶた博士になっちゃおう! 金魚ネブタをつくっちゃおう!	30	184	228	613.3	8月3日
	・君も化石博士! カッコいい化石レプリカをつくろう!!	30	44		146.7	8月17日

1) 青森県立郷土館 学芸員 (〒030-0802 青森市本町2-8-14)

平成	内容	定員	参加者数	計	参加率(%)	実施日
21	・縄文デザインのペンダントを作ろう	30	50	85	166.7	8月 2日
	・君も化石博士！ かっこいい化石レプリカをつくろう！！	30	35		116.7	8月 9日
22	・君も化石博士！ かっこいい化石レプリカをつくろう！！	60	70	111	116.7	8月 1日 午前・午後
	・稲わらで手作りエコ体験！ わら細工でむかしグッズをつくろう	30	41		136.7	8月 8日
23	・オリジナル八甲田山を作ろう！！	30	33	128	110	7月31日
	・君も化石博士！ かっこいい化石レプリカをつくろう！！	60	95		158.3	8月 7日 午前・午後
24	・「ほくらのがっこう」科学クラブ (簡単な工作やおもしろ実験)	30	66	181	220	7月29日
	・君も化石博士！ かっこいい化石レプリカをつくろう！！	60	115		191.7	8月 5日 午前・午後
25	・スタンドグラスを作ろう！！	30	52	161	173.3	7月28日
	・君も化石博士！ かっこいい化石レプリカをつくろう！！	60	109		181.7	8月 4日 午前・午後
合計				1560		

過去13年間での「こどものくに」参加者は、延べ1560人である。もっとも参加者数の多い年は、平成20年度の講座「ねぶたはかせになっちゃおう！金魚ネブタをつくっちゃおう！」で184人である。平成18年度に、はじめた講座「君も化石博士！かっこいい化石レプリカをつくろう！！」は、表1の参加者数からわかるとおり定員を常に超えた。平成17年度からは実施日を2日間にし、この人気のある講座を午前と午後で2回実施するようになった。ただし、年度によっては参加者が定員割れをおこなっているが、平成20年度以降は、定員割れにはなっていない。この参加者数の変化の要因を考えることで、青森県立郷土館における今後の「こどものくに」のあり方がわかる。以下で考察する。

2 「こどものくに」の内容について

「こどものくに」の参加数の変化には、「こどものくに」の内容が大きく関わっていると考えられる。表1から参加者数の多い順に「こどものくに」の内容をまとめると表2になる。

表2 (平成12年度～25年実施の「こどものくに」の内容と参加者数上位5)

順位	平成	内容	参加者数合計
1	20	・ねぶた博士になっちゃおう！金魚ネブタをつくっちゃおう！ ・君も化石博士！かっこいい化石レプリカをつくろう！！	228
2	24	・「ほくらのがっこう」科学クラブ (簡単な工作やおもしろ実験) ・君も化石博士！かっこいい化石レプリカをつくろう！！	181
3	12	・ネブタの話・プラスチック標本1・2	173
4	25	・スタンドグラスを作ろう！！ ・君も化石博士！かっこいい化石レプリカをつくろう！！	161
5	23	・オリジナル八甲田山を作ろう！！ ・君も化石博士！かっこいい化石レプリカをつくろう！！	128

参加者の多い要因を表2の内容の項目から分析すると、どの年度にも共通して考えられることは、第1にものを作る体験活動に参加者が多いこと。第2に作った制作物を持ち帰ることができること。第3に学校や家庭では体験が難しい内容であること。以上の3点が考えられる。つまり、参加者は普段体験できない活動や物作りなどに取り組みたいのである。また、「こどものくに」が開催される期間が夏休みであることから、小学生の夏休みの宿題(工作)製作に利用する参加者が多いということである。「こどものくに」に参加した保護者からのアンケート集計(別紙1)から推論できる。

表3 平成25年度「こどものくに」に関するアンケートの回答（60人 複数回答）

回 答	人数
夏休み工作にピッタリ。	23
ステンドグラスに興味があったから。	10
子供にいろいろな体験をさせたいから。	5
普段やらないことをやらせたかったから。	11
内容がおもしろいから。	5
子供の希望。	3
参加料が無料で、自分では思いもつかない作品作りだったから。	5
子供の自由研究。	4
化石をテーマにしていたため。	7
子供が恐竜が好きだったため。	3
郷土館の展示を見るいい機会だと思ったから。	1
子供を夏休みのイベントにたくさん出したいと思ったから。	1
子供でも化石レプリカが作れると思ったから。	12
学校からのチラシで。	3
子供が物作りが好きなので。	4
子供と一緒に作業したい。	7

次に、表2から平成20年度に開催された「ねぶたはかせになっちゃおう！金魚ネブタをつくっちゃおう！」と「君も化石博士！かっこいい化石レプリカをつくろう！！」についての合計の参加者は228人となっているが、「ねぶたはかせになっちゃおう！金魚ネブタをつくっちゃおう！」の開催に関しては、青森県立郷土館独自の開催ではなく、青森市中央市民センターとの共催でおこなわれたものである。内容としては、金魚ネブタ作りだけではなく、ねぶた衣装の着付け体験コーナーや担ぎねぶたの展示、ねぶたの歴史のパネル展示などを含むものである。つまり、上記のいずれかの体験活動や展示を観覧した人を参加人数としてカウントした。このことから、他の社会教育施設との連携を図りながら県民のニーズにこたえることができる内容を企画し「こどものくに」の実施が良い評価を得ている。

また、表2の平成24年度「ほくらのがっこう」科学クラブ（簡単な工作やおもしろ実験）と「君も化石博士！かっこいい化石レプリカをつくろう！！」についての合計の参加者は181人となっている。この平成23・24年度に開催された「こどものくに」の内容は、開催中の特別展の内容にリンクしたものを企画し開催した。平成23年度の特別展「十和田湖・八甲田山」。平成24年度の特別展「学制公布140周年記念ほくらのがっこう」である。つまり、特別展とリンクした内容を企画して「こどものくに」を企画すれば特別展を観覧し、「こどものくに」への参加が期待できると考えられる。

以上のことから、夏休みの宿題（工作）制作での利用。（ものづくりや体験活動）他の社会教育施設との連携特別展の連携。の3点を踏まえて、「こどものくに」の内容を企画して実施が望ましい。

3 県民が求めているもの

「こどものくに」の内容についての要望を平成25年度のアンケート結果の集計（別紙1）をもとに確認する。今後の「こどものくに」でやってみたいことを記入してもらったところ以下の要望があった。

- ・立体工作
- ・縄文土器を作り
- ・小物入れづくり
- ・木工工作
- ・ステンドグラス作り
- ・ねぶた工作
- ・学校へ宿題として持って行ける作品
- ・土偶づくり
- ・青森にちなんだ切り絵
- ・勾玉づくり
- ・こぎん刺し
- ・昔のオモチャ作り
- ・昆虫標本
- ・発掘作業体験
- ・工作用自動車
- ・ホタテ貝細工

このことから工作やものづくりに関係するものの要望が多い。なかには、発掘作業体験・縄文土器・土偶作りなどがあり三内丸山遺跡を含む縄文遺跡群の影響を受けたものもある。

また、要望として、「こどものくに」の開催日を増やして欲しいというアンケートの回答もあり、多くの人が参加の機会を希望していることがわかる。



写真1 「ステンドグラスを作ろう!!」の様子 (平成25年度 7月実施)



写真2 「君も化石博士! カッコいい化石レプリカをつくろう!!」の様子 (平成24年度 8月実施)

4 今後の課題と対策

以上の考察から次の4点が課題として上げられる。①開催日を増やすこと。②特別展や企画展と連携してる内容を実施すること。③夏休みの宿題（工作）制作で利用できるようにすること。④他の社会教育施設との連携すること。

これらの課題について、次の対策が考えられる。①の対策としては、子供の夏休みに合わせて、平日に開催する。週に2日のペースで学芸員のみならず、解説員やボランティアの力を借りながら開催する方法がある。ただし、解説員やボランティアに事前の研修を十分に行う必要がある。②の対策としては、学芸員のアイデア力と企画力に頼らざるおえない。③の対策としては、つねに県民の要望しているものに耳を傾けて、実施可能なものを選択して内容を決めなければならない。アンケートの実施がとても大事である。④の対策としては、郷土館から他の社会教育施設や博物館に夏休み中に連携して「こどものくに」を開催し、県民に郷土館の教育普及活動を広く広報していることが対策となる。

5 おわりに

今後の「こどものくに」のあり方について当館での実施を例にして児童を対象とした「こどものくに」について考察した。ここで上げられた課題と対策を考慮し職員が一体となって今後取り組んでいきたい。

